

群 教 七	G02 - 02
	平29.265集
	社会 - 小

地域社会の社会的事象の特色や相互の関連 について考える力を育てる指導の工夫

—付箋紙を活用して情報を分類・整理しながら
比較・関連付ける活動を通して—

特別研修員 高宮 昭子

I 研究テーマ設定の理由

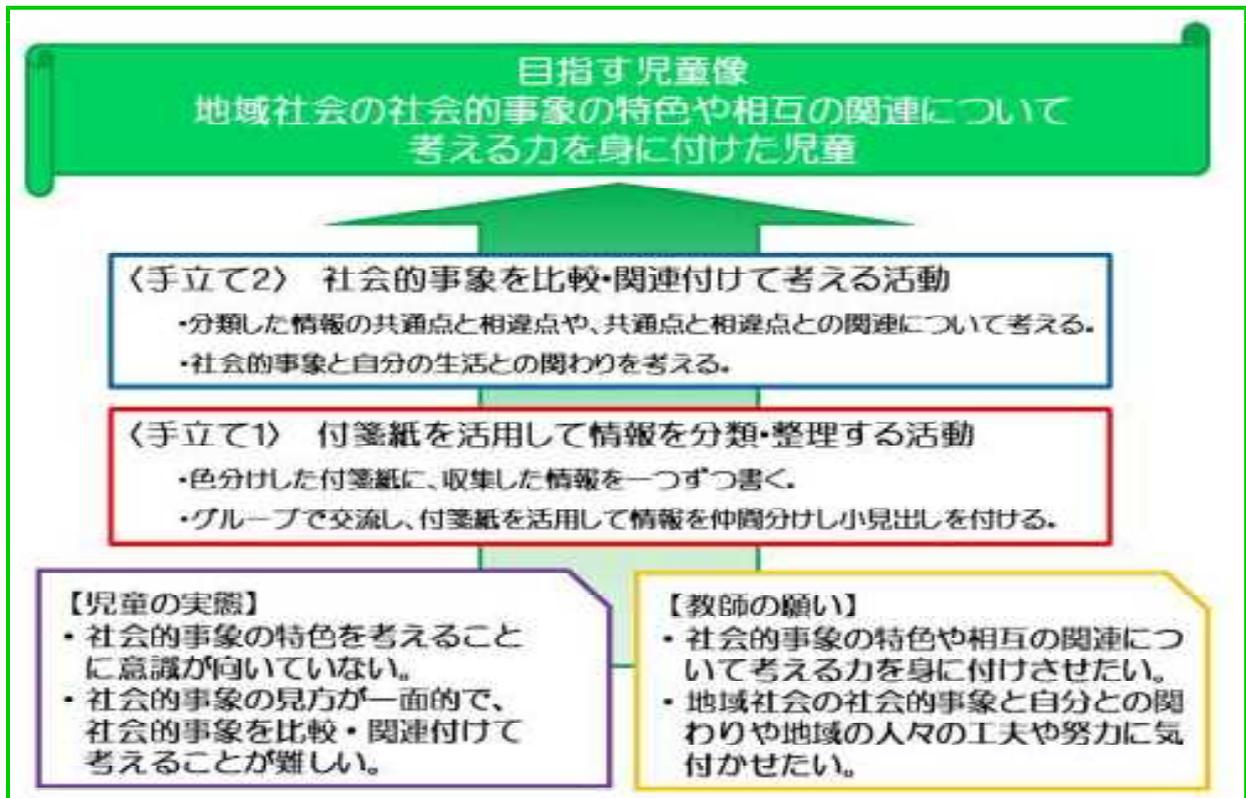
はばたく群馬の指導プランには、群馬県の社会科の課題として「比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること」とあり、3・4年生の伸ばしたい資質・能力として「人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解すること」が挙げられている。

所属校の児童は、自分が生まれ育った地域のことが好きであり、「自然が豊かなところ」や「野菜がたくさんとれるところ」などを誇りに思い、愛着を持っている。しかし、それは児童にとって目に見える分かりやすい特色であり、その背景にある地域の地形や土地利用の特色を理解したり、人々の工夫や努力を考えたりするところまでは至っていない。

そこで、身近な地域の調査・見学を行い、まず、収集した情報を付箋紙を活用して分類・整理することで共通点や相違点を見いだす。次に、共通点や相違点を比較・関連付ける活動により、事象同士の関連について理由を基に考えたり自分との関わりについて考えたりする。これらの活動を通して、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育てたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力を育てるためには、付箋紙を活用して情報を分類・整理しながら比較・関連付ける活動が有効であると考え、以下のような手立てを設定した。

手立て1 色分けした付箋紙を活用して情報を分類・整理する活動

手立て2 社会的事象を比較・関連付けて考える活動

手立て1の活動では、まず一人一人が収集した情報を、異なる地域や異なる立場などの視点ごとに色分けをした付箋紙に書く。次に、グループになり「付箋紙貼り付けシート」（4頁図1）にその付箋紙を貼っていく。その際、書いてあることを発表してから貼り、同じことを書いた児童はその友達の付箋紙の近くに自分の付箋紙を貼るようにする。全ての付箋紙を貼り終わったら、同じ内容の付箋紙ごとに○で囲んで仲間分けし、それぞれの仲間に小見出しを付ける。さらに、同じ色の付箋紙の小見出し同士や色の異なる付箋紙同士を見比べて、似ている小見出しを線でつないだり、線でつながらない小見出しの内容をグループ内で確認したりする。

手立て2の活動では、手立て1の活動で分類・整理した情報を全体で出し合う。その際に、色の異なる付箋紙の内容や小見出しごとに分けて板書し、共通点がある項目は線で結んだり、相違点についてはその理由を考えたりする。また、関連性により矢印などの記号を用いて、取り上げた情報としての社会的事象の比較・関連付けを行う。さらに、社会的事象と自分との関わりについて考えられるように、「私は～だから○○が好き」のように、自分を主語とした定型文を用いて表現する活動を取り入れる。

これらの活動を通して、児童は異なる視点ごとに色分けした付箋紙を活用し、グループで付箋紙の内容を交流し合いながら小見出しを付けることによって、情報を分類・整理することができるようになると思われる。さらに、仲間分けした情報を社会的事象と捉え、共通点や相違点に着目して比較・関連付けを行い、社会的事象と自分との関わりを考えることで、地域社会の社会的事象の特色を実感を伴って捉えたり、地域の人々の工夫や努力によって自分の生活が支えられていることに気付いたりできると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 色分けした付箋紙は、視覚的に捉えやすく、情報を分類・整理する上で有効であった。
- 個人で書いた付箋紙をグループで交流し合うことで情報量を確保することができ、それらを分類・整理することによって、地域の社会的事象の特色を明らかにしていくことができた。
- 全体での交流では、共通点や相違点といった視点を示すことで、比較・関連付けがしやすくなり、さらに共通点を線でつなぐことで、社会的事象の相互の関連を視覚的に捉えることができた。
- 自分を主語にした定型文を提示することは、児童が社会的事象と自分との関わりを考える上で有効であり、地域の人々の工夫や努力について気付き考えることにもつながった。
- グループ、全体と、二度の交流活動において、「沼田には○○が多いね」「お店の人のこの工夫はお客様のこの願いとつながると思う」など互いの考えを出し合ったり、聞き合ったりすることができ、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える力が育まれてきた。

2 課題

- 「付箋紙貼り付けシート」に付箋紙を貼りながら分類・整理を行っていく活動では、自分と友達の情報や考えを比べながら共通点に気付くことや、その共通点を端的に表す小見出しを付けることが難しいグループもあった。今後も同様の学習経験を積ませていくとともに、個々の児童の考えや学習状況を的確に把握し、話し合いが深まるようなグループ分けをしていくことも必要であると感じた。
- 全体で行う比較・関連付けにおいて、どの内容ともつながらない相違点の部分をどのように扱うかという点に課題が残った。単元によっては、相違点の理由を考える活動を取り入れていくなど有効な手立てを考えていきたい。

実践例

1 単元名 店ではたらく人（第3学年・2学期）

2 本単元について

小学校学習指導要領解説社会編（第4章 指導計画の作成と内容の取扱い）では、「社会的事象を比較・関連付け・総合して見たり考えたり，社会的事象を空間的，時間的に理解したり，公正に判断したり多面的にとらえたりできるようにすることが大切である」と示されている。また、はばたく群馬の指導プランでは、社会の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力として「比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること」を挙げている。

そこで本単元では、付箋紙を活用して、商店で働く人の工夫と消費者の願いをグループでそれぞれ分類・整理し、次に分類・整理した商店で働く人の工夫と消費者の願いとの関連についてグループや全体で話し合う活動を行う。さらに、商店や商店で働く人の工夫と自分の生活との関わりについて考えることを通して、商店で働く人の仕事が自分たちの生活を支えていることを理解できるようにする。

以上のようなことから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	地域の販売の仕事の様子を見学・調査し、これらの仕事の特色や他地域との関わりを理解するとともに、働く人の工夫と消費者の願いとの関連や自分との関わりについて考え、これらの仕事で自分たちの生活を支えていることを理解することができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	地域の人々の販売の仕事の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。
	社会的な思考・判断・表現	地域の人々の販売の仕事の様子を自分たちの生活と関連付けて考えている。
	観察・資料活用 の技能	観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。
	社会的事象について の知識・理解	地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時 ～3時	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの買い物の経験を振り返り、よく行く店やその理由などについて話し合う。 ・買い物調べの結果から、学習課題を設定する。 ・課題の答えを予想し、追究の見通しを持つ。
	第4時 第5時 第6時 ～8時 第9時 第10時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケット見学の計画を立てる。 ・チラシから品物の産地を調べ、地図で確認する。 ・スーパーマーケットで働く人とお客さんにインタビューし、働く人の工夫やお客さんの願いについて調べる。 ・見学を通して収集した情報を立場ごとに色分けした付箋紙に書く。 ・スーパーマーケットで働く人の工夫と消費者の願いの共通点と相違点を分類・整理し、関連を話し合う。 ・スーパーマーケットで働く人の工夫と自分たちの生活との関わりについて考える。
まとめ	第11時 ～13時	<ul style="list-style-type: none"> ・店で働く人の工夫について分かったことや考えたことを自分の言葉で表し、学習した内容を新聞にまとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全13時間計画の第10時に当たる。これまでに、スーパーマーケット見学で聞いてきた店の人の話や実際に働く様子を見て気付いたこと、お客さんへのインタビューで分かったことなどから、「店の人の工夫」と「お客さんの願い」を色分けした付箋紙に書く活動を行った。一つの工夫や願いをそれぞれ一つの付箋紙に簡潔にまとめ、一人一人が「店の人の工夫」「お客さんの願い」についてそれぞれ3～6枚程度の付箋紙に書くことができた。本時ではそれらの付箋紙を持ち寄って、分類・整理するところから行った。具体的な手立ては次のとおりである。

手立て1

- スーパーマーケット見学で得た情報を基にして、「店の人の工夫」を赤色の付箋紙、「お客様の願い」を青色の付箋紙に、それぞれ書く。(前時の活動)
- グループで、「付箋紙貼り付けシート」に付箋紙を貼りながら「店の人の工夫」と「お客様の願い」をそれぞれ仲間分けして小見出しを付け、分類・整理する。

手立て2

- 全体で、「店の人の工夫」と「お客様の願い」を見比べながら、相互の結び付きを共通点、結び付かないものを相違点として捉え、比較・関連付ける。
- 店や店で働く人の工夫と自分の生活との関わりについて考える。

4 授業の実際

導入では、スーパーマーケット見学時の写真を提示して、「店の人の工夫」への意識付けをし、また「お客様の願い」についても想起させながら、「店で働く人はどのような工夫をしているのかを考えよう」という本時のめあてを提示した。

(1) 色分けした付箋紙に書かれた「店の人の工夫」と「お客様の願い」を分類・整理する活動

グループになり、「付箋紙貼り付けシート」に、前時に書いた付箋紙を貼っていった。その際、「お客様の願い」を受けて「店の人の工夫」があることを捉えられるよう、「お客様の願い」から仲間分けしていった。友達の付箋紙に書かれた内容を聞いて、自分も同じと賛同して友達の付箋紙の近くに自分の付箋紙を貼ることができていた。また、同じか似ているか違うかの判断がつかないときは、グループ内で話し合いながら、全員の付箋紙を貼り終えることができた。

次に、図1のように、似ている内容の付箋紙を○で囲み、小見出しを付けた。安さ・品ぞろえ・安心安全を小見出しの例として示したが、例示の言葉を使うよりも付箋紙に書いてある言葉の一部を小見出しとして付けていたグループが多かった。

最後に、赤色の付箋紙と青色の付箋紙を見比べて、小見出しが同じまたは似ているものを線でつないだ。この活動の際には、同じ色の付箋紙同士でも似ているものは線でつなぐようにした。このことによって、仲間分けの活動では付箋紙の内容の共通部分あまり見付けられずに、一枚一枚の付箋紙に小見出しを付けることになったグループでも、似ている工夫や願いに気付くことができた。

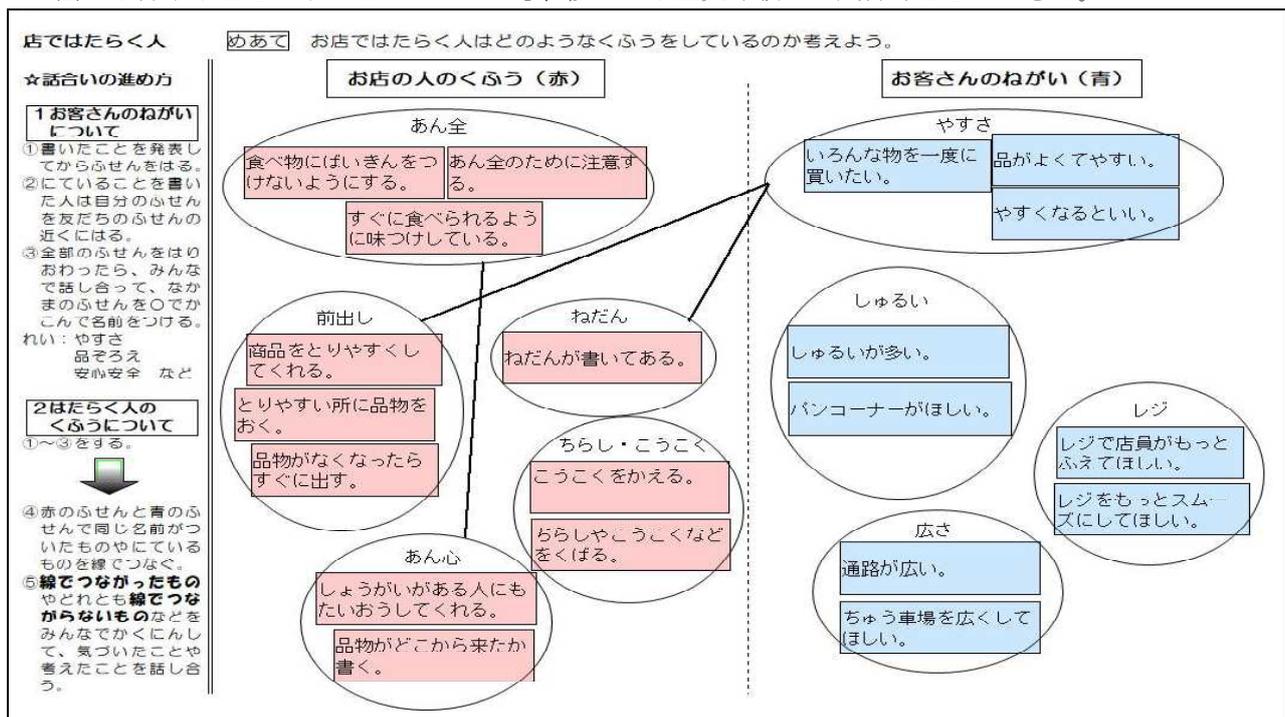


図1 「付箋紙貼り付けシート」上での分類・整理

(2) 「店の人の工夫」と「お客様の願い」を比較・関連付けたり、スーパーマーケットや働く人の工夫と自分の生活との関わりを考えたりする活動

グループでの話し合いを受けて、全体で「店の人の工夫」と「お客様の願い」を出し合った。グループ活動と同様に「お客様の願い」から発表するよう促した。「店の人の工夫」については、児童の発表の際、関係する写真資料を提示し、スーパーマーケット見学のことを思い出しながら、工夫について全員で確認した。

次に、図2のように「店の人の工夫」と「お客様の願い」を関連付ける活動を行い、児童の発言を基に、同じもしくは似ている内容を線でつないで

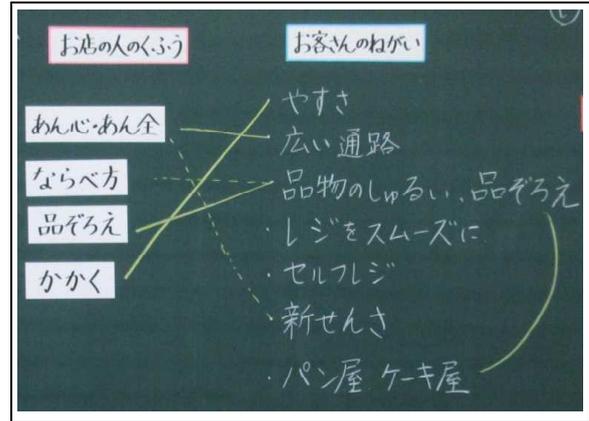


図2 店の人の工夫とお客さんの願いの関連付け

いった。どの願いと工夫がつながられるのかを改めて考えたり、お客様の願いに応えるように店の人の工夫があることを視覚的に捉えたりしている様子が見られた。

そして、スーパーマーケット見学での買い物体験などを想起させながら、お客さんの中には自分自身も含まれていることを確認し、スーパーマーケットと自分の生活との関わりを考える活動を行った。この結果、「私は、～だからスーパーマーケットが好き」という定型文に自分なりの理由を当てはめて文を考えることができた。また、「ねだんが安いから」「おかしがいっぱいあるから」のように複数の理由を挙げた児童も多く、「品物が新鮮で、安全だから」「品ぞろえがいいから」のように、店の人の工夫をスーパーマーケットのよさや魅力として捉え、それらの工夫が自分の生活と関わっていることに気付くことができていた。

最後に、再度、写真資料を指し示しながら、「これらの工夫は何のため？」という発問を行った。児童からは即座に「お客さんのため」「お客さんと呼ぶため」といった発言があった。それを受けて、「お店の人は、～のために のような工夫をしている」という定型文を提示し、そこに、自分で言葉を当てはめて本時のまとめとした。児童のまとめは図3のとおりである。児童は、黒板に示した「店の人の工夫」カードの言葉を使いながら、スーパーマーケットで働く人の工夫について、お客様の願いと関連付けて考えたことを基にして、自分なりの言葉でまとめることができた。

図3 児童のまとめ

- ・お店の人は、お客さんがたくさん来るように、品ぞろえ、ならべ方のようなくふうをしている。
- ・お店の人は、お客さんをよぶために、安心安全な品物売っている。
- ・お店の人は、お客さんのために、安心安全、ならべ方、品ぞろえ、かかくなどのくふうをしている。

5 考察

手立て1において、色分けした付箋紙を活用することは、視覚的に捉えやすく、話し合いの中で付箋紙を自由に動かせるというよさもあり、情報の分類・整理に有効であることが分かった。また、グループで情報を持ち寄ることで、自分と友達の考えや気づきの共通点や相違点も分かり、互いの付箋紙の内容に興味・関心を持って分類・整理の活動に取り組むこともできた。また、小見出しを付ける活動は、分類・整理した内容を端的に表し、グループ内の共通理解を図る上でも重要であるが、よりの確な小見出しを付けるためには、学習経験を積み重ねていくことが大切であると感じた。

手立て2において、社会的事象の共通点を線でつないでいくことは、社会的事象相互の関連について考える上で分かりやすく、「店の人の工夫」と「お客様の願い」を見比べながら、複数の願いと工夫がつながったり、願い同士がつながったりすることを視覚的に捉えることができた。今後は、グループでの交流をより生かした全体での話し合いにしたり、児童が主体となって線でつないだりできるような比較・関連付けの仕方についても探っていきたい。また、自分を主語にした定型文の提示は、児童が社会的事象と自分の生活との関わりについて考える上で有効であり、比較・関連付けた内容を再認識することにもつながった。社会的事象と自分の生活との関わりを意識して学習に取り組むことは、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える上で重要であり、今後も継続していきたいと考える。